

# 令和8年度 住吉第一中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## Ⅰ 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

| 学年<br>実施月日 |     | 生徒数<br>(人) | 平均正答率 (%) |      | 平均無解答率 (%) |      | 平均IRTスコア<br>英語4技能<br>( ) 内は3技能 (参考) |
|------------|-----|------------|-----------|------|------------|------|-------------------------------------|
|            |     |            | 国語        | 数学   | 国語         | 数学   |                                     |
| 3 年        | 学校  | 102        | 59        | 52   | 8.3        | 15.9 | 495 (495)                           |
|            | 大阪市 | -          | 60        | 55   | 5.4        | 11.4 | 499 (499)                           |
| 4月23日      | 全国  | -          | 63.9      | 57.0 | 4.9        | 10.4 | 499 (499)                           |

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 調査結果とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について

### 成果と課題

#### ○全国学力・学習状況調査

##### 国語

成果：全国と比較して、「書くこと」の領域において平均正答率（65.3%）が大阪市平均（64.2%）を上回っており、全国平均（67.4%）との差も他の領域に比べて小さくなっています。

課題：「読むこと」の領域においては、平均正答率が52.5%にとどまり、全国平均（59.7%）を大きく下回っています。

また、平均無解答率（8.3%）が全国（4.9%）と比べて高い点も課題です。

##### 数学

成果：全国と比較して、「数と式」の領域において平均正答率（63.6%）が最も高くなっています。

課題：すべての領域で全国平均を下回っており、特に「図形」（44.2%）、「関数」（48.5%）、「データの活用」（48.5%）の領域において平均正答率が5割に達していません。

また、平均無解答率（15.9%）が全国（10.4%）を大きく上回っている点も顕著な課題です。

##### 英語

成果：全国と比較して、IRTバンド5（最上位レベル）の割合が9.8%と、全国平均（5.9%）や大阪市平均（6.4%）を大きく上回る顕著な成果が見られます。

課題：IRTバンド1の割合も5.9%と全国平均（4.7%）より高くなっており、平均IRTスコア（495）も全国平均（499）を下回るなど、学力層の二極化傾向と全体的な底上げが課題となっています。

### 今後に向けて

国語：強みの「書くこと」を伸ばし、弱点である「読むこと」の要旨把握や情報整理の指導を強化して読解力の底上げを図ります。

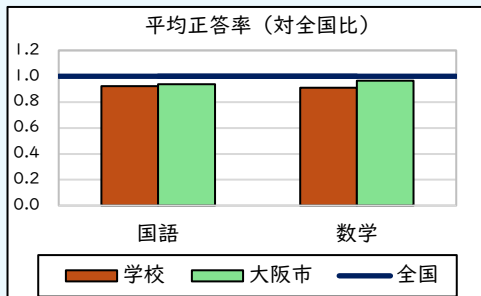
数学：基礎の定着と苦手な「図形・関数・データ活用」の視覚的指導を徹底し、粘り強く取り組む姿勢を育てて無解答率を減らします。

英語：最上位層（バンド5）への発展的学習を継続しつつ、下位層（バンド1）への個別支援による基礎定着を徹底し、学力の二極化を解消します。

# 令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

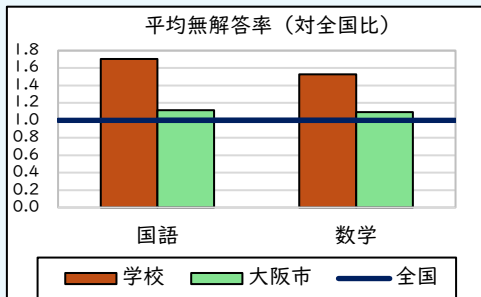
## 平均正答率（％）

|     | 国語   | 数学   |
|-----|------|------|
| 学校  | 59   | 52   |
| 大阪市 | 60   | 55   |
| 全国  | 63.9 | 57.0 |



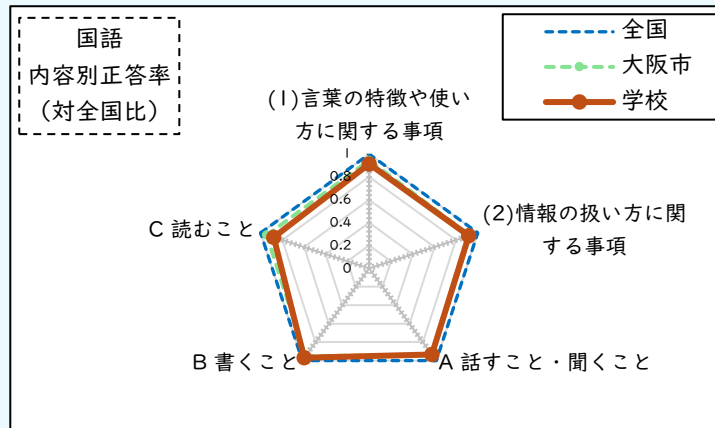
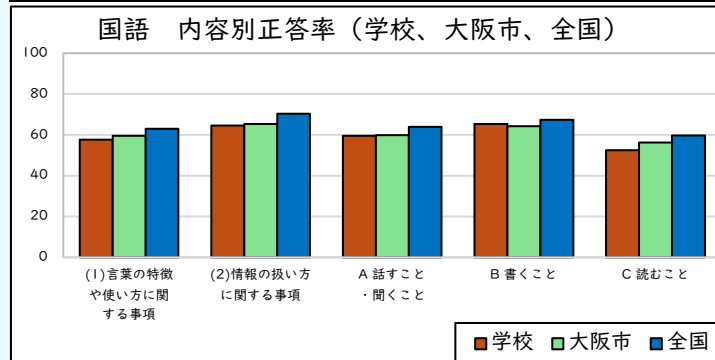
## 平均無解答率（％）

|     | 国語  | 数学   |
|-----|-----|------|
| 学校  | 8.3 | 15.9 |
| 大阪市 | 5.4 | 11.4 |
| 全国  | 4.9 | 10.4 |



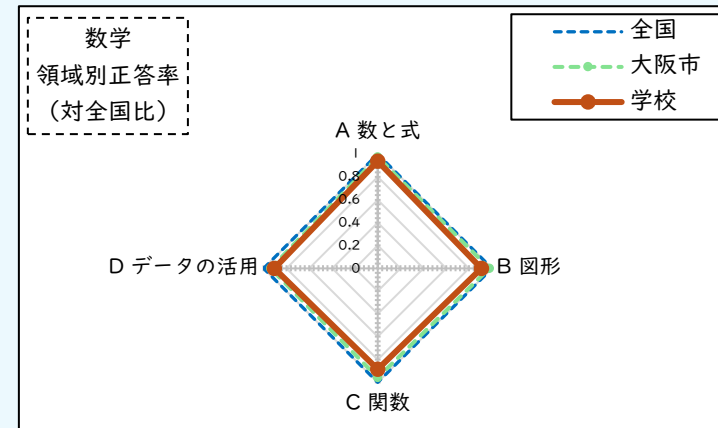
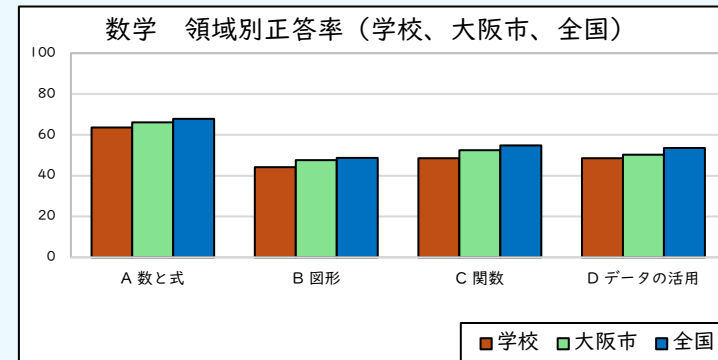
## 【国語】内容別正答率

| 学習指導要領の内容           | 対象問題数（問） | 平均正答率（％） |      |      |
|---------------------|----------|----------|------|------|
|                     |          | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| (1)言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 5        | 57.6     | 59.5 | 63.0 |
| (2)情報の扱い方にに関する事項    | 1        | 64.6     | 65.3 | 70.4 |
| (3)我が国の言語文化に関する事項   | 0        | -        | -    | -    |
| A 話すこと・聞くこと         | 3        | 59.6     | 59.9 | 63.9 |
| B 書くこと              | 3        | 65.3     | 64.2 | 67.4 |
| C 読むこと              | 3        | 52.5     | 56.3 | 59.7 |



## 【数学】領域別正答率

| 学習指導要領の領域 | 対象問題数（問） | 平均正答率（％） |      |      |
|-----------|----------|----------|------|------|
|           |          | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| A 数と式     | 5        | 63.6     | 66.1 | 67.8 |
| B 図形      | 4        | 44.2     | 47.6 | 48.7 |
| C 関数      | 3        | 48.5     | 52.5 | 54.8 |
| D データの活用  | 4        | 48.5     | 50.2 | 53.5 |



# 令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

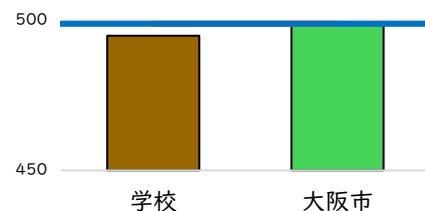
## 英語 平均IRTスコア

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校  | 495 (495) |
| 大阪市 | 499 (499) |
| 全国  | 499 (499) |

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ ( ) 内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語 4技能



### 【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

### 【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

### 【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

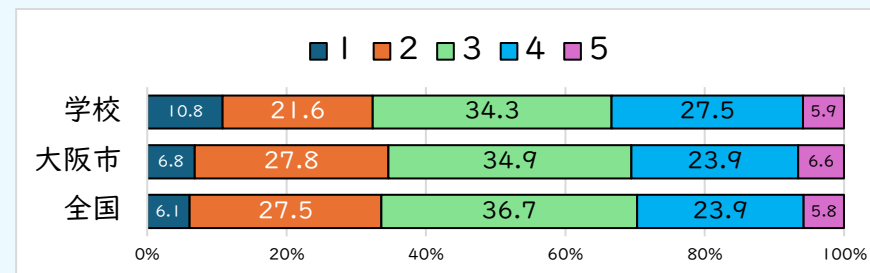
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

## IRTバンド分布比較（4技能）

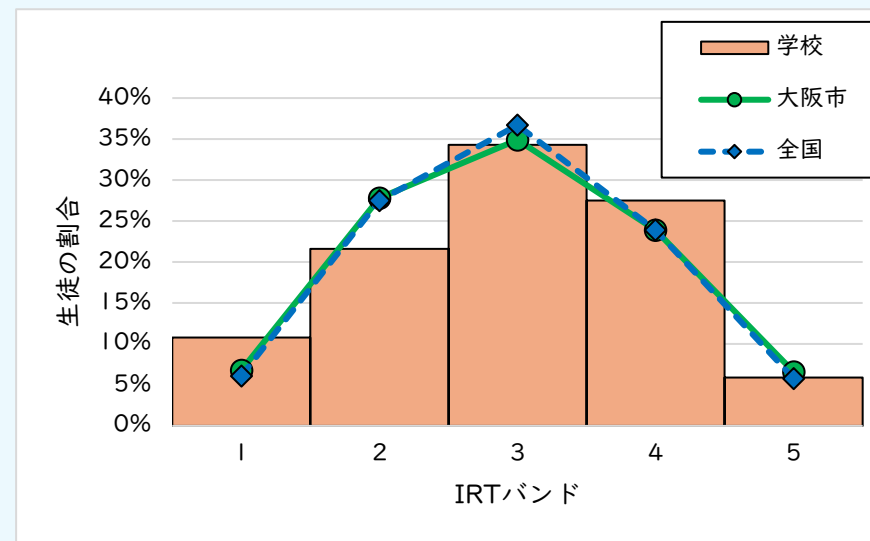
|     | 1    | 2    | 3    | 4    | 5   |
|-----|------|------|------|------|-----|
| 学校  | 10.8 | 21.6 | 34.3 | 27.5 | 5.9 |
| 大阪市 | 6.8  | 27.8 | 34.9 | 23.9 | 6.6 |
| 全国  | 6.1  | 27.5 | 36.7 | 23.9 | 5.8 |

※ 4技能のIRTバンド分布です

### IRTバンド分布比較（4技能）



### IRTバンド分布グラフ（4技能）



# 生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

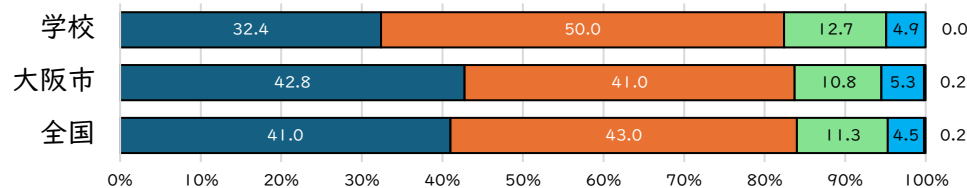
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

質問事項

(8)

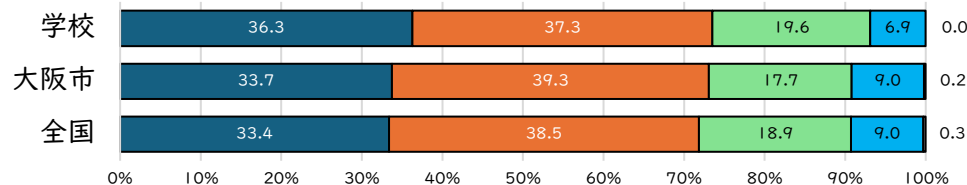
自分には、よいところがあると思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(13)

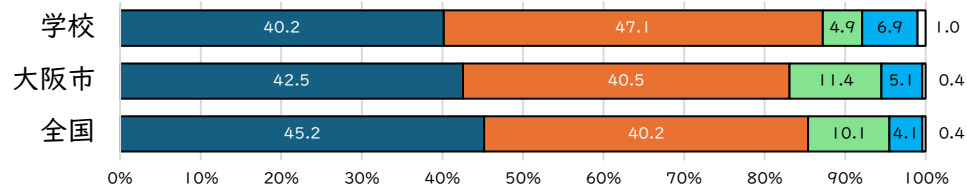
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(15)

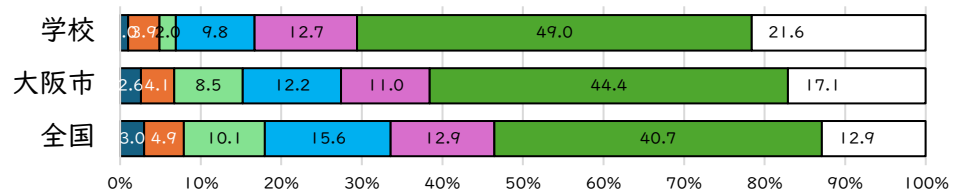
学校に行くのは楽しいと思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(26)

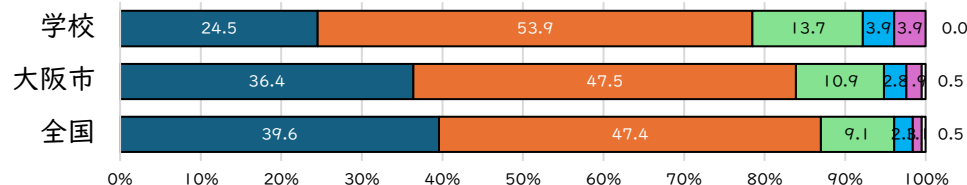
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



- 1 2時間以上
- 2 1時間以上、2時間より少ない
- 3 30分以上、1時間より少ない
- 4 10分以上、30分より少ない
- 5 10分より少ない
- 6 全くしない

(42)

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない
- 5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って

# 学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

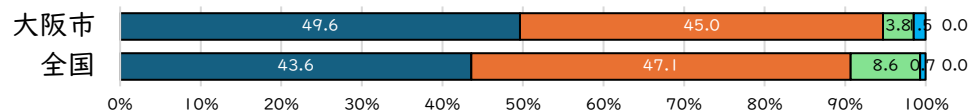
質問番号

質問事項

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

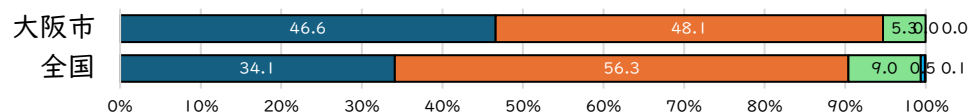


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(9)

調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

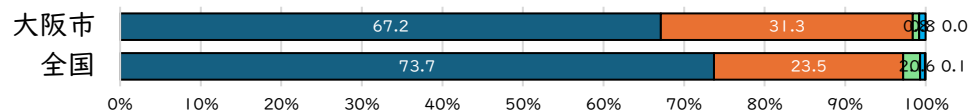


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(13)

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか

【学校の回答】 1 そう思う

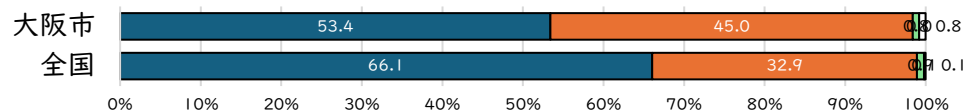


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(21)

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していますか

【学校の回答】 1 そう思う

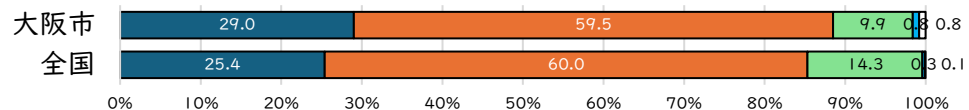


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(33)

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、行った



- 1 よく行った
- 2 どちらかといえば、行った
- 3 あまり行わなかった
- 4 全く行わなかった